

わが家のアイドル

柿崎にお住まいの
村上 秀樹さん・優さんの

長男 ^{さつ} ^き 颯 樹 くん(1歳8か月)

パパとママとかいじゅうさんになって追いかけてするのが大好き。
車と電車のおもちゃもお気に入り。
最近は外で水遊びするのが楽しいんだ。
顔も服もびしょびしょになっちゃうけどやめられないよ。
早くプールであそびたいな。



みなさんのお宅のアイドルの写真を募集しております。市役所総務課へどしどしお寄せください。



下田市はあいさつ運動実践中 『おはよう』の声 こだまする



下田まち遺産とは・・・
下田まち遺産とは『下田の人が昔から大切にしてきたもの。そしてこれから新たに大切にしていきたいもの』のことです。これら下田まち遺産は下田市景観まちづくり条例に基づき決定されたもので、今後、市が認定した130件の下田まち遺産を紹介していきます。



稲田寺 津なみ塚

ペリー提督とハリス総領事が下田を訪れた時期はほぼ同じですが、それぞれが見たまちなみは異なるものでした。
ペリー提督が下田に入港したのは嘉永七年(1854年)で、ハリス総領事は安政三年(1856年)に玉泉寺に入つ

ています。この間に下田にとつて辛い悲しい出来事がありました。それは安政東海地震による大津波です。下田湾に数回に渡り押し寄せた大津波は、下田のまちに壊滅的な被害をもたらしました。町内948戸中927戸が流失し、122人が溺死したと言われています。幕府の救済活動は早かつたものの、ハリス総領事が見た下田はペリー提督が見たまちなみとは、異なるものでしたでしょう。

稲田寺の津なみ塚は、大津波による犠牲者を追悼するために建てられました。現在では津波の記憶を引き継ぐシンボルともなっています。我々は津波の犠牲者を偲ぶことはもちろんですが、津なみ塚が静かに物語るまちの記憶を忘れてはならないと思います。

今村公勤功碑と武方浜波除

江戸時代初期、海に面した下田の町は大嵐のたびに被害を受け、町民は危険に脅かされてきました。それを受けて、第二代下田奉行の今村伝四郎正長は、自らの私財を投じて、正保二年(1645年)に武方浜に波除(堤防)を建設し

ます。これにより、下田のまちは守られ、船の着岸も容易になり、下田の繁栄につながったと言われています。そのため、まちの人は現在でも今村伝四郎正長のことを、敬意をこめて『今村公』と呼びます。

今村公勤功碑は今村公の功績を称え、波除の完成にあわせて名主三名が共同で建立した記念碑です。当初は武山に建てられていましたが、その後、武方浜に移設されました。今村公が建設した波除は江戸時代を通じて、修繕や改修を繰り返しながら下田のまちを守り続けましたが、安政東海地震による大津波によって崩壊します。しかし、今村公の精神は受け継がれ、大津波の翌年には現在の武方浜波除が完成しました。先人のまちを想う気持ち、武方浜波除には受け継がれています。



問合せ先 建設課都市住宅係

☎ 22219

「広報しもだ」は再生紙を使用しています

伊豆縦貫自動車道を早期完成しよう!!

「伊豆縦貫自動車道ロゴマーク」を利用して、伊豆縦貫自動車道の整備促進と活性化を県内外にPRしましょう!! ご利用方法については、以下の市ホームページをご覧ください。

■ 下田市ホームページ <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/>

